

聖書日課 『からし種』 2023.3.26-4.2

<p>3月26日 (日) I サム 9章</p>	<p>「あるとき、サウルの父キシユのろばが数頭、姿を消した」(3節)。ろばが姿を消した時、ろばを探しに行ったサウルが預言者サムエルと出会い、油を注がれて王に立てられることになる、誰が想像できただろうか。神は最も小さな部族ベニヤミンの、最も小さな一族の息子を用いたもう。神は不思議な方。神がなされることは、わたしたちの思いをはるかに超えている。</p>
<p>27日 (月) I サム 10章</p>	<p>「主は答えられた。『見よ、彼は荷物の間に隠れている。』人々は走って行き、そこから彼(サウル)を連れてきた」(22-23節)。民の誰よりも頭一つ背が高かったサウルが荷物の間に隠れている姿を想像すると滑稽な感じがする。偉丈夫でありながら小心者であったサウル。だが、主はすべてご存知の上で彼を王として立てた。私たちが神の働きを担う奉仕に立てられる時、その力はすべて主から来ることを覚えたい。</p>
<p>28日 (火) I サム 11章</p>	<p>「しかし、サウルは言った。『今日は、だれも殺してはならない。今日、主がイスラエルにおいて救いの業を行われたのだから」(13節)。「だれも殺してはならない」というサウルの言葉が、この日だけでなくずっと語られ続けたら…と思う。人間の王は空しい殺戮を終わらせることはできない。殺戮を終わらせ、平和をもたらすことができるのは十字架の主のみである。</p>
<p>29日 (水) I サム 12章</p>	<p>「むなしいものを慕ってそれで行ってはいけない。それはむなしいのだから何の力もなく、救う力もない」(21節)。私たちは自分が慕っているものの空しさを知っているし、ほんとうの救いがどこから来るのかも知っているではないか。にも関わらず、空しいものを追い求めることを止められない私たちの弱さがある。今日、十字架の主に立ち帰る信仰を与えてください。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.3.26-4.2

<p>30日 (木)</p> <p>I サム 13章</p>	<p>「サムエルはサウルに言った。『あなたは愚かなことをした』(13節)。最初の王サウルにサムエルは厳しすぎる気がする。私たちは失敗をし自分の愚かさを思い知らされて、少しずつ神の恵みを慕い求める信仰を学ぶのではないか。ただここでも私たちは、私たちには理解しきれないサウルへの厳しさを通して、主の前に小さくされることを学ぶよう導かれている。</p>
<p>31日 (金)</p> <p>I サム 14章</p>	<p>「主が勝利を得られるために、兵の数の多少は問題ではない」(6節)。一見無謀でありながら、主を信頼するヨナタンの行動がイスラエルに勝利をもたらす。サウル王の判断の過ちを補うヨナタンの存在を主は示そうとされたのだろう。王であったとしても私たちの知恵には限界がある。自分の足りない部分を補い助けてくれる者を送ってくださいと、主に願おう。</p>
<p>4月1日 (土)</p> <p>I サム 15章</p>	<p>「主が喜ばれるのは焼き尽くす献げ物やいけにえであろうか。むしろ、主の御声に聞き従うことではないか」(22節)。王サウルは武将としてのリーダーシップを委ねられたが、神の御心を尋ねることにおいては、祭司サムエルの言葉に聴き従うことを厳しく求められた。人間が神の言葉も自由に判断できると過信する時、道を踏み外してしまうことを覚えない。</p>
<p>2日 (日)</p> <p>I サム 16章</p>	<p>「しかし、主はサムエルに言われた。『容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る』(7節)。主に見えるわたしの心はどうだろうか。わたしたちには見えない賜物を見出し、希望をいただくことができるだろうか。表面で偏り見ることのない目をどうぞお与えください。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2023.3.26-4.2